くすりのしおり

注射剤
2014 年 03 月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：フィブロガミンＰ静注用

主成分：乾燥濃縮人血液凝固第 XIII 因子(Lyophilized Human Blood Coagulation Factor XIII Concentrate)

剤形：注射剤

シート記載：

この薬の作用と効果について

血液が固まるのを助ける働きのあるタンパク質（血液凝固第 XIII 因子）を補うことにより、血が止まりにくくなったり、傷が治りにくくなっている状態を改善します。

通常、先天性および後天性血液凝固第 XIII 因子欠乏による出血傾向、血液凝固第 XIII 因子低下に伴う縫合不全および癒孔、シェーンライン・ヘノッホ紫斑病における腹部症状、関節症状の改善に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。貧血、免疫不全・免疫抑制状態がある。
・妊娠または授乳中
・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

・あなたの用法・用量は〈〈　　：医療担当者記入〉〉

・先天性および後天性血液凝固第 XIII 因子欠乏による出血傾向：通常、ゆっくり静脈内に注射します。一定期間使用したあとで、症状を見ながら使用期間を決めていきます。
血液凝固第 XIII 因子低下に伴う縫合不全および癒孔：通常、ゆっくり静脈内に注射します。通常、5 日間注射します。
シェーンライン・ヘノッホ紫斑病：通常、1 日 1 回、ゆっくり静脈内に注射します。原則として 3 日間注射します。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発疹、発熱、吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、倦怠感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[　] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

・顔面蒼白、冷汗、立ちくらみ［ショック］

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

・血液を原料とした製剤であることから、感染症を防止するために原料血漿の検査やウイルスの不活化・除去処理をおこなっており、現在までにこの薬剤が原因とされる感染は報告されていませんが、ウイルス感染、プリオン感染の可能性を完全に否定することはできません。

医療担当者記入欄

年　　月　　日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。